

# 東京バッハ合唱団 月報

[第 635 号] 2015 年 5 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101  
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604  
Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 635

May 2015

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 旧稿発掘 [日本経済新聞 1980 年]

大村 恵美子

### バッハだけに酔う合唱団 (\*1)

50 年誌『東京バッハ合唱団 半世紀の歩み』  
刊行の機に

今から 35 年前に主宰者・大村恵美子の書いた新聞記事の切り抜きが出てきた。全体がかなり黄ばみ、ところどころ虫食いで薄くなっている。保存を兼ねて、団員の白井昭子さんにワープロ入力していただいた。現在 (2015 年 5 月) の時点での実数などを追記し、脚注の形で補ってみた。

『東京バッハ合唱団 半世紀の歩み——創立 50 周年記念誌』刊行の機に、達成したもの、未達のもの、途絶えたもの、その後の取り組み、もろもろを思い合わせつつ再読していただくことにも、なんらかの意義はありそうだ。

縦組みで、数字は漢数字だったものを、横組みにし、慣用のアラビア数字に換えたものもある。

オリジナルは、「日本経済新聞」昭和 55 年 (1980 年) 10 月 2 日朝刊「文化欄」(24 面) に掲載された。(写真)



### ◇すでに全カンタータの 3 割ほど演奏 (\*2) ◇

毎年 4 曲歌っても 50 年

バッハ合唱団 (\*3) は、わが国でただ一つの、バッハ音楽ばかりをレパートリーとする演奏団体である。創立以来 18 年間 (\*4)、47 回の定期演奏会 (\*5) と数十回の特別演奏会 (\*6) で、バッハのカンタータ、オラトリオ、モテット、受難曲、ミサ曲等を、オーケストラ、オルガンとともに、演奏しつづけて来た。昨年からは、バッハの青年時代に作曲した、初期カンタータの連続演奏をはじめ、現在すでに 10 曲ほどに達したところである。このまま数年は、ほぼ作曲年代順にバッハの軌跡を追っていくことになる。

なぜこのように、宗教音楽全般ではなく、バッハだけに限定するのかと問われることも多いが、バッハひ

とりで 200 曲もカンタータを書いており、いったんこの宇宙に足を入れてみると、そこが無限の宝庫であることに心うたれる。しかも四季折々、冠婚葬祭、人生のあらゆる時期にふさわしい内容を、それぞれの曲がまことに魅力的な特徴をもって歌っているのである。あたかも香り高い蜜でみたされたある一種の花のむらがり咲く花畑を見つけた蜂のように、他の場所を飛びまわる余裕がなく、十分にみたされてしまう。かりに全カンタータを毎年新しく 4 曲歌うとしても、50 年ばかり、人生をほとんど最後まで覆うほどの豊かさである。実際にはたびたび同じ曲を再演する機会をつくるので、全曲に達するまでにはさらにかかることになる。現在はそれでも三分の一ほどは歌ってきたら

\*1) バッハだけに酔う合唱団……この表題は新聞社がつけたもの。\*2) すでに全カンタータの 3 割ほど演奏 [サブタイトル] ……先月の月報 (634 号) 掲出の大村恵美子の記事によると、「これまでに手がけていない未演奏カンタータ 62 曲」。全 200 曲ほどのうち、6 割ほどが演奏されたことになる。\*3) バッハ合唱団……第 1 回ドイツ演奏旅行 (1983 年、当稿でも後に触れる) に際し、ライブツィヒ・トマス教会公演の主催者、DDR (ドイツ民主共和国、東ドイツ) 芸術公団が制作したポスターに表記された名称「東京バッハ合唱団」"BACH-CHOR, TOKYO" が当地での呼称となっていた。後に、バッハ生誕 300 年記念祭 (1985 年) を機に日本の各地でも都市名を冠した「バッハ合唱団」が数多く活動を開始したので、いわば消極的に国内でも「東京バッハ合唱団」と名乗ることとなった。\*4) 創立以来 18 年間……1962 年創立以来 53 年。\*5) 47 回の定期演奏会……直近の定期演奏会は第 112 回。\*6) 数十回の特別演奏会……「定期」以外の客演や自主公演は、年間 2、3 回催される。計算では、2.5 回/年×53 年=132.5 回。このたびの『50 年誌』第 7 部・資料編の「演奏会全記録」で数えてみてください。(B5 判・240 ページ、頒価 2000 円+送料 350 円、事務局までお申込みください)

うか。

### 毎月2回ゼミナール

ではこの団体はアマチュアですかと問われる。給料を払わず、会費を徴収しているからには、プロとはいわない。合唱団員は会費を出して、演奏会ごとに独唱者とオーケストラにお礼をしている。しかし、音楽学校を出ても声の出ない人は多いし、おまけにこれまでの音楽大学は、ほとんどバッハを教えてくれる先生が存在しなかったので、バッハを歌った経験のある音大生はごくわずかである。音楽学校を出なくても、十何年とバッハ一筋に勉強をつづければ、ただの音大卒の声楽家よりもはるかにバッハの専門家でありうる。ましてや合唱は、学校で独唱を教わっただけで、そのまま通用するものではない。多くの音大生は、合唱に不適なものがある。はじめから学びなおさなければならない。

その上、バッハ合唱団は、毎月2回、練習の他にゼミナールをつづけている。一つは練習後約3時間、磯山雅氏、戸口幸策氏、樋口隆一氏等第一線の音楽学者を講師として、演奏曲を1曲ごと丹念に分析理解してゆく。一つは練習1回分をさいて、辻莊一氏、高橋昭氏等の幅広い知識と豊富なレコードによって、講演、レコード鑑賞スタイルのゼミナールが展開される。両者とも団員だけに限らず、一般公開となっている。

これはゼミナールの期間の長さといい、密度の濃さといい、バッハに関してはどこの大学の講座も到底及ばないほどの内容である。毎月確実に続けているので、年を重ねた団員たちは、バッハのことなら隔々にまで明るくなっている。このことがバッハ音楽を歌う上でどんなに支えになることか、はかり知れない。

### 宗教音楽は自国語で

ようやく最近でこそ演奏会で合唱曲を日本語で歌う機会も多くなり、世界のアイドル小沢征爾氏も、宗教音楽は自国語でという固い方針といわれ、いくぶん世論もそのことになれてきたようである。訳語で歌う功罪はかなり論議されてきている。しかし、これだけ民間に外国旅行が流行し、国際感覚も一般化してきたように見えても、自国語と同じように、外国語で喜怒哀楽や深い内容を表現することは、そんなうわべだけの愛好とはもともと次元を異にする、根本的な問題である。

バッハを歌う場合にも、永年かけてドイツ語をひたすら習得しても、そのことと心の歌を自国語で歌うことは、あくまでも並行するものがある。バッハ合唱団では、定期演奏会と教会での演奏には、原則として私の訳した日本語歌詞で歌ってきた。クリスマス・オラトリオなどは毎年12月ごとにくり返し歌うので、子供でも気軽に口ずさんでいる。そのような親しみは、ドイツ語ではなかなか持てないであろう。

学生時代熱心にクリスマス・オラトリオを原語でたつきこんでいた団員がいて、今でもいくらでもドイツ

語が口に出てくるのだけれど、それがどういう内容なのかは、何もおぼえていないので自分でもおかしくなるといふ。それが自然のメカニズムであろう。プログラムや解説などがない所でも、読めない人に対しても、直接にうったえかける演奏ができるように、というのが私たちの理想なのである。

### 生誕300年にドイツへ

この春、私たちの演奏会の録音テープを、盲人施設に贈ってほしいという、長崎の修道院からの声がとどいた。「声の奉仕会マリア文庫」といい、一年前からはじめておられるとのことである。そして、できることなら長崎でも実際に演奏をききたいというお話。私たちはこれの実現に、喜んでとりくんだ。そして10月10、11、12日の3日間、長崎市内4カ所の修道院、教会で歌うことになった。

参加する団員は、9歳から72歳まで約40人。カンタータ、モテット、ミサ曲各1曲ずつの練習に、日祭日も返上して余念ない。今年だけでも、5月27日に東京・石橋メモリアルホールで第47回定期演奏会(カンタータ4曲)、8月9日に長野県野尻湖神山教会で特別演奏会(カンタータ3曲)、10月の長崎特別演奏会が終ると12月27日には東京・石橋メモリアルホールの第48回定期演奏会(カンタータ1曲、クリスマス・オラトリオ後半)が待っている。

しかし、演奏会間際に例外的に3回のオーケストラとの合同練習がある他は、やたらと強化臨時練習などはとっていない。日曜<sup>(\*)</sup>、月曜の通常練習時間だけになるべくとどめ、バッハが日常生活のリズムの一環として息長く歌われてゆくよう、心がけている。

特殊な人たちの熱狂的な集まりとならないよう、バッハがだれのものでもあるように、という基本的構えに立っているのである。そのせいで、社用に追いまくられる有能会社員も、子供を何人も持つ主婦も、あらゆる立場の人たちが、それぞれに生活設計を家族ぐるみでとのえながら、参加してくるのである。

バッハは、青春時代に食いちらす教養種目の一つには終わらない。一生のつきあいとなってくる。学生時代に歌っていた団員が、結婚後、小学生となったわが子ともども、復団してくる。夫が妻を、妻が夫をさそってくる。これをみていると、日本の文化もようやく根深くなりつつあることが実感されてくるのである。力強いもの、裏切らないものが、バッハの音楽には存在する。どんな人が歌いに来ても、安心して仲間になってもらえるという、この世ではまれな交わりが、ここでは成り立っているのである。

バッハ生誕300年にあたる1985年に計画されるドイツ旅行を目指して、バッハ合唱団は今から備えを始めるところである。

(おおむら・えみこ＝バッハ合唱団主宰、指揮者)

---

\*7) 日曜……現在は、毎週の土曜と月曜。

# 南相馬公演の関連コンサート、 都内で開催します

## 練習の本格スタート

後援自治体の世田谷区(2/15)と杉並区(3/21)の各広報で知った方々や、釧路と名古屋から月1回通う計画の方、元団員の方など、合計10名の新規参加者を加えて、4月の初めの練習日から、南相馬公演に向けての本格的な練習がスタートしました。

また、地方在住の元団員や後援会員の方々(山形県や山口県など)も、それぞれの地で楽譜を読み込みながら合流の時を待っています。今後も、さらに10名ほどの増員を予定しており、夏の本番のステージ(福島県・南相馬市民文化会館「ゆめはっと」1100席)では、充実した声量のバッハ音楽をお届けすることができるでしょう。

## 都内での関連公演と公開リハーサル

いっぽう、都内と近郊にお住いの定期演奏会ご常連のみなさま、後援会員、サポーター会員をはじめご支援者のみなさま方には、福島県までのご足労は適いませんので、本公演の一端に触れていただくための機会を、いくつか用意しました。

一つは、7月のプレコンサート(7/12、詳細右記)。これは世田谷区松原の松原教会(日本基督教団)が、伝道音楽会として会場をご提供くださったものです。



二つ目は、南相馬行の直前、ソリスト・オーケストラ勢揃いの公開リハーサル(8/18, 20、荻窪教会)です。いずれも、会場の席数に限りがありますので、事前に

## 3.11 被災地訪問演奏 南相馬公演と都内での関連公演、他 <最新版>

- ◆ [プレコンサート] (世田谷・松原)
  - ・7月12日(日)、14:00 開演
  - ・会場: 日本基督教団・松原教会  
(世田谷区松原5-44-12。地図参照)  
京王線「明大前」駅下車、徒歩約8分  
井の頭線「東松原」駅下車、徒歩約5分
  - ・曲目: 南相馬公演(第112回定期演奏会) 曲目より抜粋
  - ・演奏: 合唱と斉唱…東京バッハ合唱団  
オルガン…鈴木礼子(松原教会オルガニスト)  
指揮…大村恵美子
  - ・入場無料

- ◇ [公開リハーサル] (杉並・荻窪)
  - ・8月18日(火)、18:00~21:00
  - ・8月20日(木)、18:00~21:00
  - ・会場: いずれも荻窪教会  
(杉並区荻窪4-2-10、土曜の練習会場)  
JR中央線/東京メトロ丸ノ内線「荻窪」駅下車  
<南口>より徒歩8分

- [本番: 南相馬公演] (第112回定期演奏会)
  - ・8月22日(土)、13:30 開演
  - ・会場: 南相馬市民文化会館(ゆめはっと)
  - ・曲目と演奏者などの詳細は、公演チラシ参照

- ◆ [報告コンサート] (杉並・荻窪)
  - ・9月26日(土)、14:00 開演
  - ・会場: 日本基督教団・荻窪教会(土曜練習会場)
  - ・曲目: 南相馬公演(第112回定期演奏会) 曲目より抜粋
  - ・演奏: 坂田和泉(ヴァイオリン)、伊藤恵以子(チェロ)、石川優歌(オルガン)、大村恵美子(指揮) 東京バッハ合唱団

<詳細は続報>

ご一報いただけると幸いです。

翌日(8/21)の早朝に東京をたつて、5,6時間で現地着、夕方に交歓レセプションをご準備くださり、本番は8/22土曜。終演後ただちにバスで帰着の計画です。

そして、首都圏周辺の皆さまへは、三つ目の機会となる報告コンサート(9/26、荻窪教会)が開催されます。ここには、本番でコンサートマスターを務めてくださるヴァイオリンの坂田和泉さん、同じく本番のオルガニスト石川優歌さんが出演の予定。チェロの伊藤恵以子さんは南相馬にはご一緒できませんが、代役で出演を予定くださっています。

7月のプレコンサート、9月の報告コンサート、いずれも、南相馬公演(第112回定期演奏会)の曲目の抜粋で、独奏部分を各声部の団員が斉唱で歌います。猛練習しますので、ご期待ください。

# 大村恵美子先生

## 84 歳お祝いのお花見旅行

小野 久美 (団員)

4月3日(金)、大村先生のお誕生日お祝い会として「身延山久遠寺と三嶋大社桜めぐり」のバス旅行に行きました。クラブツーリズムのツアー(34名参加)に大村先生ご夫妻はじめ7名で加わったものです。

添乗員さんが混雑とお天気のことを考慮され、先ず身延山久遠寺に向かうことになりました。身延山という長い階段を登るというイメージですが、上の駐車場までバスで行けて、そこから斜行エレベーターで簡単に境内に到着できました。霧雨が降ってはいましたが、日の光が明るく樹齢400年のしだれ桜も満開でお花見を堪能し、久遠寺の諸堂もゆっくり拝観できました。境内はもちろん身延山周辺の山桜、道端の桜、家々の庭の桜もほとんどがいろんな種類のしだれ桜なのは珍しいなと思いました。

バスの中でビールとお弁当をいただきながらの移動、いろいろおやつも出され、途中沼津の「道の駅」で海産物などの買い物をしたりしながら三嶋大社へ、あいにく雨は本降り状態になりましたが参道の桜並木、池の縁のしだれ桜も見頃、樹齢1200年の金木犀の樹を觀賞。

本殿前にある舞殿でかわいい稚児による舞が奉納(稚児健康祈願祭)されていて、思いがけない光景に心なごまされました。

もう1軒おみやげ屋さんへ寄り後は帰り旅。箱根新道は晴れていれば素晴らしいはずの景色も濃霧で視界ゼロ、眠気にさそわれ車内も静かでした。

往復とも順調で2か所の見学場所の滞在時間もゆったりとれ、帰着も早めになりました。朝早い出発でかなり長距離のバス旅だったのに疲れもなく、小グループでのバス旅はなごやかな一日でした。



### 被災地訪問演奏ツアーのためのバザー

この新年からスタートした、東京バッハ合唱団「支援基金」への呼び掛けに応じて、早くも20余名の方々からご支援をいただきました。中には8月22日の福島県での公演が成功するようにと、お励ましのお言葉を添えてくださり、ありがたく感謝しております。

練習場でも、これから機会のあるたびに、団内でのミニバザーをして、公演の諸支出に備えてゆきますので、団友・後援会・サポーターの皆様方、もしバザーにご出品いただけるようでしたら、合唱団事務局あて、多少にかかわらずお送りくださいますよう、お待ちいたします。

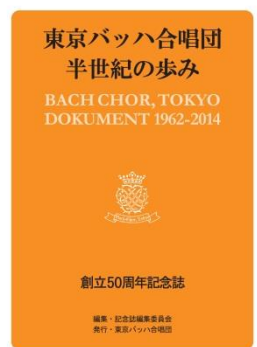
締め切りは設けませんが、7月18日(土)には、荻窪教会で年度の団員総会を行いますので、その日までにお送りいただければ、総会終了後の4時30分~5時くらいまでを一般公開にして、どなたでもお立ち寄りいただくことができます。ご献品、ご来場、お買い上げ、たのしみに期待させていただきます。

### ◆お待たせしました！

## 創立50周年記念誌 「東京バッハ合唱団 半世紀の歩み」

- ・B5判 / 240頁
- ・頒価 2000円
- ・送料 350円

東京バッハ合唱団 半世紀の歩み  
創立50周年記念誌



半世紀の金字塔、手にとってご覧ください。『三十年の歴史』(\*)以降の集大成です。

創立50周年祝賀メッセージ、《マタイ受難曲》、《ヨハネ受難曲》を終えての出演者の感懐、最近10年間の主なる月報記事再録、「バッハ合唱団をとりまく人々」(大村恵美子記)、創立より50年間のフォトアルバム、全公演記録・演奏曲目一覧など。

売上げは、合唱団運営費に充当させていただきます。

\*) 草創から、苦難を乗り越えて……、大村恵美子『東京バッハ合唱団 三十年の歴史』(1992年刊、四六判・350頁、頒価3000円・送料350円)、残部僅少。